和の伝統文化

芸術学科　和の伝統文化コース

TR テキストレポート科目　TX テキスト特別科目　S スクーリング科目　必 必修科目　選 選択科目

※下記でご紹介する科目は2026年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

和の伝統文化コース専門教育科目

様々な伝統文化の、本物の息吹に触れる。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
伝統文化入門	伝統文化の学び方	S	必	1		「和の伝統文化」を学ぶ上で必要となる学問上の基礎知識を身につけるとともに、学習や研究の進め方・考え方等について学ぶ。
伝統文化研修		S	必	1		
伝統文化基礎講義	伝統文化の考え方	TR	必	2	有	
伝統文化論 I-1	和歌連歌	TR	必	2	有	日本の伝統文化を「和歌連歌」、「中世芸能」、および「近世芸能」という観点から眺め、それぞれの角度から見えてくる文化の特色を把握・理解するとともに、その成果の記述・表現方法を学ぶ。
伝統文化論 I-2	中世芸能	TR	必	2	有	
伝統文化論 I-3	近世芸能	TR	必	2	有	
伝統文化論Ⅱ-2	茶道	TR	必	2	有	「茶道」「煎茶道」および「花道」に関するテキスト科目。これらの文化がいったいどのような歴史的背景をもって成立し、展開してきたのかを学ぶ。
伝統文化論Ⅱ-3	煎茶道	TR	必	2	有	
伝統文化論Ⅱ-4	花道	TR	必	2	有	
伝統文化実践 I-1	鑑賞と批評	S	必	1		「鑑賞と批評」、「室礼と道具」という観点から、和の伝統文化の土台となる諸要素について幅広い知識を得るとともに、実践を通じてその技術や考え方に触れる。
伝統文化実践 I-4	室礼と道具	S	必	1		
伝統文化実践Ⅱ-1	伝統邦楽	S	選	1		「伝統邦楽」、「伝統芸能」、および「茶」といった日本の伝統文化を代表する具体的な諸芸道に関して、実践を通じてそれらの背後にある哲学に触れ、その考え方を考察する。
伝統文化実践Ⅱ-3	伝統芸能	S	選	1		
伝統文化実践Ⅱ-4	茶の文化	S	選	1		
伝統文化 I-2	日本の芸能	S	選	1		「日本の芸能」を学ぶ科目。能楽や歌舞伎といった代表的な芸能文化について、その歴史や思想に関する基礎知識を身に付けた上で、実習を交えながら技術面・観賞面での重要なポイントを学ぶ。
伝統文化 I-4	ことばと文化	S	選	1		「ことばと文化」に関する科目。伝統文化のひとつである落語について、調査・研究の仕方を学習する。
伝統文化Ⅱ-2	煎茶の世界	S	選	1		「煎茶の世界」に触れる科目。煎茶文化の背景にある思想を講義と演習を通して体験的に学習する。
伝統文化Ⅱ-4	伝統文化の諸問題	S	選	1		「伝統文化の諸問題」として、伝統文化にまつわる学問上の諸問題を大学院レベルで考察する。

芸術学科

TR テキストレポート科目　TX テキスト特別科目　S スクーリング科目

※下記でご紹介する科目は2026年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

芸術学科専門教育科目

芸術学科では、コースの枠を越えて自由に選択することのできる科目群があります。

※各コースの必修科目もあります（芸必修＝芸術学コース必修、歴必修＝歴史遺産コース必修、和必修＝和の伝統文化コース必修）。

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学基礎	TR	2	有	芸術の理論的研究に取り組むために必要な基本的語彙（キイ・ワード）の意味を理解する。あわせてそれを実際の作例に即して考えることを試み、感性的な対象に向けての理論的な思考を培うことを目標とする。※芸必修
美術史学基礎	TR	2	有	日本・東洋・西洋の美術史学の研究に親しむための入門科目。具体的な作品研究を扱う優れた文献講読を通して、作品をどのように見たらいいのか、また作品をどのように解釈したらいいのか、という美術史研究の基礎を実践的に学ぶ。
京都学入門	TR	2	有	歴史の舞台としてその中心地であった「京都」は、時代のおおきな変革の中で、つねに変貌し再生してきた。そのあとをたどることで、政治・経済・文化の歴史的変遷を学び、歴史都市「京都」の理解を目指す。
史料学基礎	TR	2	有	歴史を理解し調べる際に必要となるのは遺されてきた史・資料である。歴史的な史・資料にはさまざまな種類があり、その特質など史料論を理解する科目。※歴必修
史料講読基礎	TR	2	有	歴史的な史料の読み方を実践的に学ぶ。活字化されている史料を読むための基礎を理解出来る科目群。※歴必修
日本文化の源流	TR	2	有	「和の伝統文化」を幅広い観点から概観して基礎知識を得る為のテキスト科目群。諸々の日本の伝統芸術の源流にある文化や思想を考察する科目、日本の伝統文化と周辺地域の文化の交流史を学ぶ科目、および和食をはじめとする日本の生活文化の背後にある思想を学ぶ科目から成る。
日本文化と東アジア	TR	2	有	
日本の生活文化	TR	2	有	
芸術学概論	S	1		芸術活動は古くから人々の関心を惹き続け、それを巡るさまざまな議論が重ねられてきた。芸術の諸領域にまたがる基本的な問題をいくつかとりあげ、これまでどのようなことが論じられてきたのかを概観するとともに、芸術学の立場や方法を講じる。※芸必修
美術史学概論	S	1		美術史を学ぶための入門科目。日本・東洋・西洋の著名な美術作品を取りあげながら従来のさまざまな研究について学ぶ。過去の研究の方法論を学び、残された課題や新たな研究の可能性を模索する。※芸必修
日本美術論	S	1		日本美術史の時代的特徴、あるいはジャンル的特徴を年代ごとに取り上げ、細部にわたる講義を行う。
西洋美術論	S	1		美術史研究のさまざまな方法論を学びながら、作品について理解を深め、西洋美術史研究のための基礎的な能力を身につける。
アジア美術論	S	1		[中国]世界でも類を見ない独特な美術世界を築き上げてきた中国美術について、中国の長い歴史と広大な大地を通して見ていく。 [朝鮮半島]高麗時代から李朝時代までの約千年の美術史を、仏教絵画、陶磁、世俗画の分野で概観する。
音楽文化論	S	1		音楽を文化的システムとして考えることから、さまざまな音楽文化現象を読み解く。
京都の歴史	S	1		[京都文化論]日本の歴史文化を学ぶために理解しておきたい基本的な事柄を、京都の歴史を通して、とくに古代から近世の「文化史」という視座から学習する。より深く京都の歴史を知り、さらに日本文化の諸相への歴史的理解を目指す。※歴必修
文献資料講読	S	1		古文・漢文などの歴史的な史料を読むための初歩的な科目。漢文の訓読法や訳し方、変体仮名などの基礎を学ぶ。※歴必修

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
京都学研修1	S	1		「京都」は、古代から近代までの歴史が重層となった地である。そうした歴史や伝統行事の現場を京都各地にフィールドワークし、その空間のもつ現場の体感を大切にした、ゆたかな歴史認識を養うことを目指す。
京都学研修2	S	1		
江戸の歴史	S	1		江戸は、いうまでもなく近世の歴史の中心地であり、文化的にも京都とは異なる特色あるものを生み出した。江戸時代260年をかけて平和の中に構築された人々の生活や文化の豊かな諸相への歴史的理解を深める。
詩歌と日本文化	S	1		和の伝統文化を構成する「芸能」、「工芸」、「詩歌」、「花道」等について、その歴史や思想に関する幅広い基礎知識を講義形式で学ぶ科目。※和必修
伝統芸能と工芸	S	1		
室礼ともてなし	S	1		
伝統芸能の諸相	S	1		
花道文化の展開	S	1		
伝統文化の空間	S	1		
アカデミックスキル入門	S	1		「論文研究基礎」の前段階にあたる科目。レポートを書く上でつまずきやすい点を押さえ、提出前にセルフチェックできるよう基礎力を身につける。要約課題と授業内フィードバックをつうじて、文章を正確に読み解き、自分の言葉で説明する方法を実践的に学ぶ。
史料講読応用	TR	2	有	歴史的な史料の読み方を実践的に学ぶ。活字化されている史料について、史料講読基礎での理解を踏まえて、史料の読解力をさらに養う科目。
古文書入門	TR	2	有	くずし字の読み解き方、意味のとり方など、古文書を読む基礎的な力を養う。実際に史料を読み解き、読解力を養うとともに、その史料の持つ意味について考察する力を養う。
歴史遺産 Ⅲ-5	S	1		『くずし字用例辞典』の引き方をはじめ、くずし字の読み解き方、意味のとり方など、古文書を読む基礎的な力を養う。江戸時代の人々が書き残した本物の古文書に触れる実習も行う。また、古文書の具体的な調査方法、取り扱い方法なども学ぶ。
アカデミックスキル実践（1） ディスクリプション	S	1		芸術学の研究にとって欠かせないディスクリプションについて、実際に美術作品を取り上げながら実践的に学ぶ。
アカデミックスキル実践（2） 民俗の調査方法	S	1		様々な祭礼や行事について研究する基礎として、聞き取りなどのフィールドワークの調査を実践的に学ぶ。

研究成果を卒業論文にまとめる。

科目名	S/T	単位数	単位修得試験	履修内容
2年次				
論文研究基礎演習	TX	2		論文を批判的に読むことを学ぶ。課題として与えられた芸術学、歴史遺産、伝統文化、文芸に関する論文からどれか一つを選び、批判的に論文を読むことを実践的に学習する。先行研究とどう向き合い、新たにどのような問題提起ができるのかを自ら考察する。
論文研究基礎	S	1		「論文研究」の前段階にあたる科目。論文をどう客観的に読み、問題の所在を見い出していくのかを学ぶ。課題の論文についてグループで討議をしたり、個人で要約作成に取り組むことで、先行研究に対する客観的批判力を養う。※歴必修
3年次				
論文研究特論	S	1		歴史・美術史・芸能史などの専門家による研究成果の一端を講義で学ぶ。専門家の研究内容から、最新の研究成果を知るだけでなく、データの収集方法、史料の解釈の仕方、論理の立て方など、論文を書くためのヒントを学び取る。※歴必修※ア履修不可※文2024年度以降入学生履修不可
論文研究 I-1（芸歴和）	S	1		卒業研究（卒業論文）に直結した科目。学生が自ら研究テーマを見つけて研究し、発表し、複数の教員がゼミ形式で指導する。 ※芸・歴・和のみ履修可かつ必修
論文研究 I-2（芸歴和）	TX	1		
論文研究 Ⅱ-1（芸歴和）	S	1		
論文研究 Ⅱ-2（芸歴和）	TX	1		
4年次				
論文研究 Ⅲ	TX	2		「論文研究1」「論文研究2」の単位を修得後、「卒業研究」の着手までに1年以上のブランクができてしまう場合に、「卒業研究」の準備段階にあたるレポートを作成・提出し、教員からの添削・指導を受け、空白期間の学習を補う。
卒業研究（芸歴和）	TX	8		これまでに学習してきたことの集大成として、自らの研究成果を文章に表現し、発表する。※芸・歴・和のみ履修可かつ必修